

令和六年度 中学生の「税についての作文」

県税事務所長賞

税金が支える私たちの幸せ

学校法人千葉武陽学園西武台千葉中学校 第三学年 逆井 彩那

みなさんは幸せですか。今の生活に満足していますか。私は幸せです。しかし、それが家族や友達の支えだけではないということに気付きました。そのきっかけとなった二つのエピソードについて伝えたいと思います。

一つ目は、ある日の家族団らんのことです。テレビを見てみると、世界幸福度ランキングの一位は、七年連続でフィンランドだと知りました。フィンランドの消費税は日本と比べて非常に高く、二十四パーセントです。これは世界で六番目に高い消費税額です。これだけ高い税金を支払っているのに、なぜフィンランドの国民は幸福に感じているのでしょうか。疑問に思った私は、インターネットなどでその理由を調べてみました。

フィンランドでは、生活や教育において格差をなくしてこうとする取り組みが行われています。小学校から大学まで教育が無償なのも、生まれた環境による格差を減らして、全ての人に平等な出発点を与えようとするためなのです。あらゆる世代や状況に対するサポートが充実しており、生涯にわたって不安なく暮らすことができるので、それが幸福度の高さにつながっているのだと思います。

二つ目は、私の母の仕事についてです。

私の母は、昨年と今年の二年間、夏休みにハワイに行きました。何をしに行ったのか分かりますか。私の母は中学校の英語教師です。母の勤務している町では、ホノルル市と友好都市協定を結んでおり、小中学生海外派遣事業を行っています。町内の約二十名の児童生徒が無償でハワイに四泊六日の語学研修に行くことができます。母は引率教員として、児童生徒に同行したのです。母からその交流事業について聞いたとき、私は、「なぜ無償で語学研修に行けるのだろう」と疑問に思いました。母に尋ねてみると、町の税金を活用していることが分かりました。

そして帰国後、交流事業に参加した生徒たちは、「いい経験になった。」や「私たちの町ですごくいいよね。」「この町に生まれてよかった。」などと、口々に言っていたそうです。積極的に教育支援をしている自分たちの町に誇りを持っているに違いありません。

しかし、私の周囲では、まだ「税金で取られる」や「税金に持っていかれる」などのマイナス発言が多く聞かれます。これは税金に対する認識が不足しているからだと思います。フィンランドや母の勤務している町のように、税金の仕組みや使い道をわかりやすく発信する。そして、国民や住民はアンテナを張り、情報をきちんとキャッチする。情報を発信する側と受け取る側の両方が意識を高くもつことが大切なのです。そうすることで、私たちの税金に対する理解が今よりも深まり、幸福度がより高まっていくのだと思います。

税金は、私たちの暮らしを安心して豊かなものに使っています。私も税金のことをもっと学び、自分の将来につなげていきたいです。